

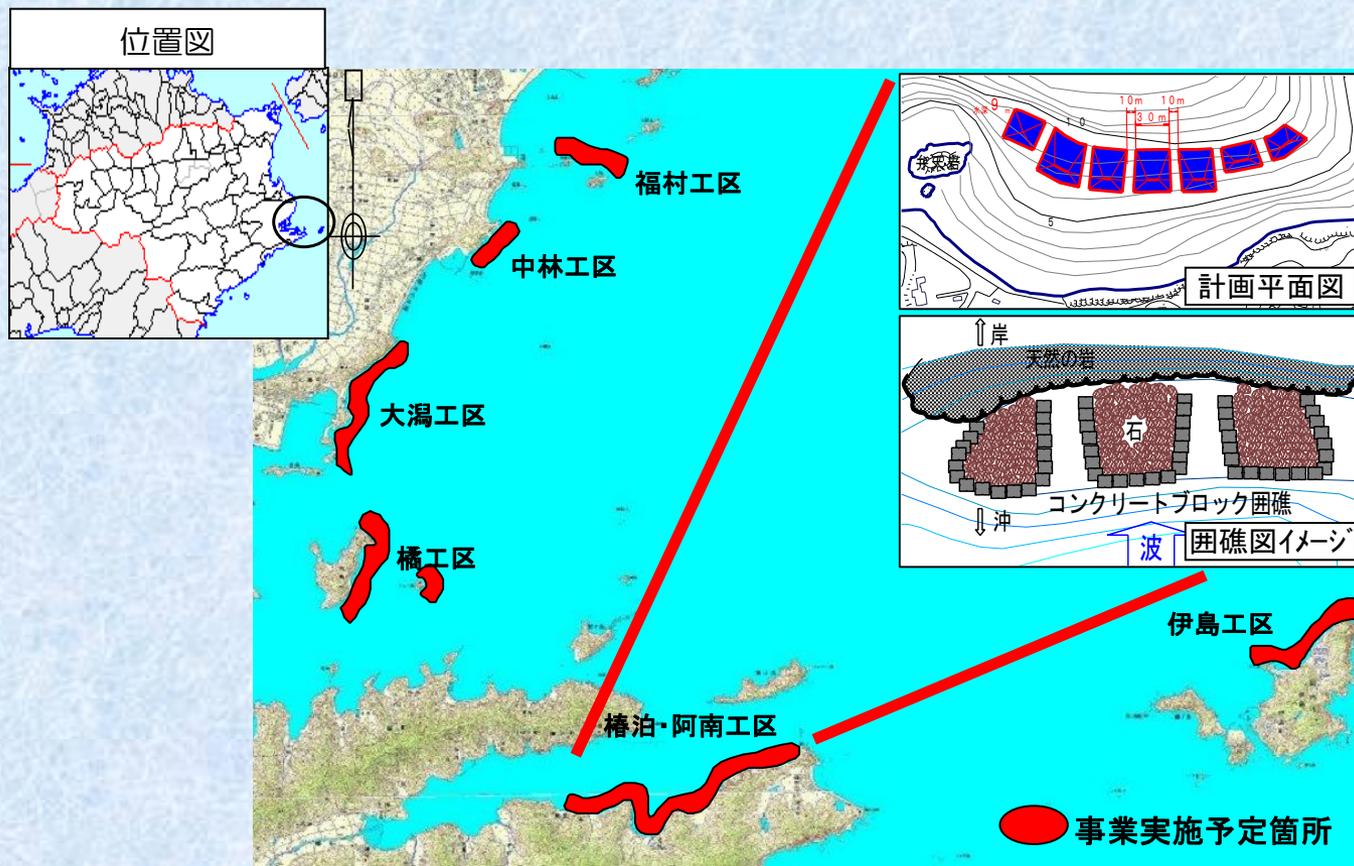
実施中の漁場保全の取組例(藻場造成:磯やけ対策)

■計画の概要(平成20~24年、瀬戸内海(紀伊水道))

着定基質となる転石等の乏しい海域において、自然石等の設置により基質の確保と海底面の嵩上げを行い、周辺藻場から自然に供給される孢子等の着定により岩礁性藻場を造成することにより、近年減少している藻場の多面的機能を回復させ、漁業生産量の増加を図る。

さらに、磯焼け対策緊急整備事業により①食害生物対策②モニタリング③着定基質表面の更新及び浮泥の除去を行うことで、より効果的に藻場造成を推進している。

■対象地区:徳島県阿南地区

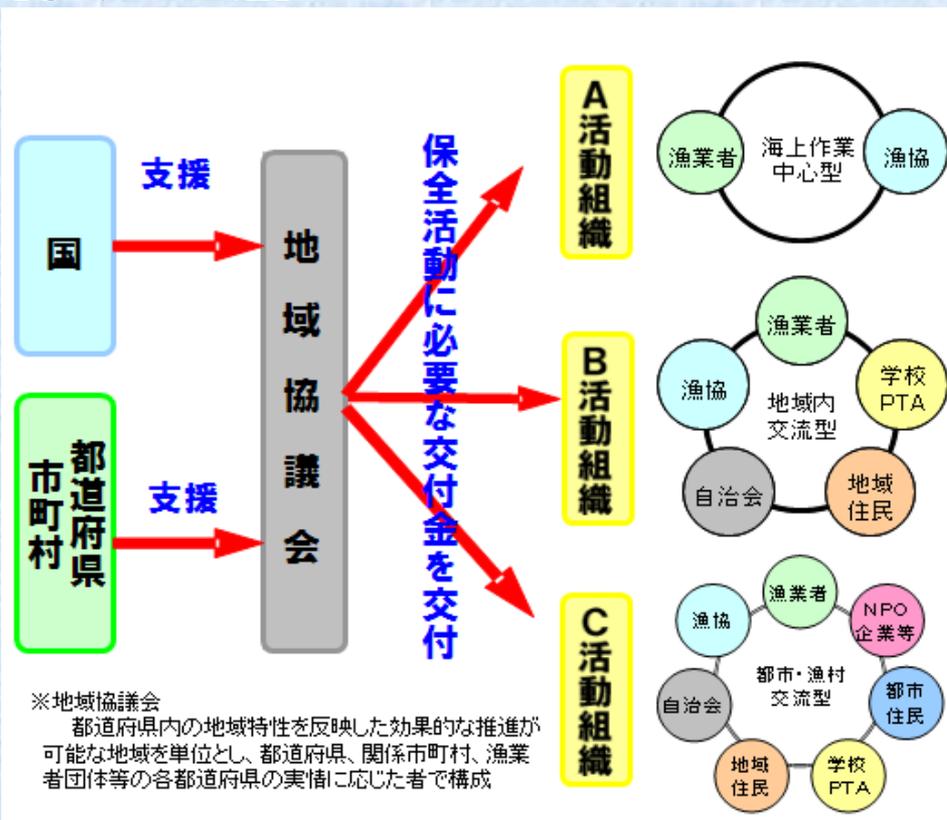


藻場・干潟等の保全活動への支援

■環境・生態系保全対策（平成21～25年）

国民への水産物の安定供給と藻場・干潟等の有する公益的機能の維持を図るため、漁業者や地域の住民等が行う藻場・干潟等の保全活動を支援。

【事業の仕組】



【支援の対象（例）】



計画づくり



モニタリング



母藻の投入



食害生物の除去



アマモの移植



干潟の耕うん

最後に知っておいてもらいたいこと
～総量削減による漁業への影響～

ノリの品質低下(色落ち)問題

- これまでの水産庁による調査から、ノリの色落ちは**栄養塩(窒素、リン)不足**が主因。
- 主要なノリ生産地でノリの色落ち(品質の低下)が頻繁に発生。ノリの養殖業の経営のみならず地域経済に深刻な影響。
- 品質のよいノリを安定的に生産するためには、**冬季に必要な量の栄養塩の確保**が課題。

○ 瀬戸内海におけるノリ色落ちの発生状況

瀬戸内海は、有明海と並ぶ2大ノリ生産地の一つ。近年、ノリ色落ち被害が拡大。8、11年度漁期の後半に大規模なノリ色落ち被害が発生。14年度以降は毎年度色落ち被害が頻繁に発生。特に19年度は、漁期当初から大規模な色落ち被害が発生し、生産量・金額ともに過去5年平均の5割。

○ 栄養塩不足の原因

- ・ ノリと栄養塩の消費が競合する特定の大型珪藻プランクトンの大量発生(低栄養塩になると発生するという知見)
- ・ 河川からの栄養塩供給の減少
- ・ 海域の栄養塩レベルの長期的な低下(下水道処理の進展) 等

○ ノリ色落ち対策について

① 二枚貝増養殖技術の開発(19~23年度)

栄養塩の吸収において、ノリと競合関係にある珪藻プランクトンを捕食するとともに、海域に栄養塩を供給する二枚貝を、ノリ養殖漁場近傍で効果的に増養殖させる技術の開発。

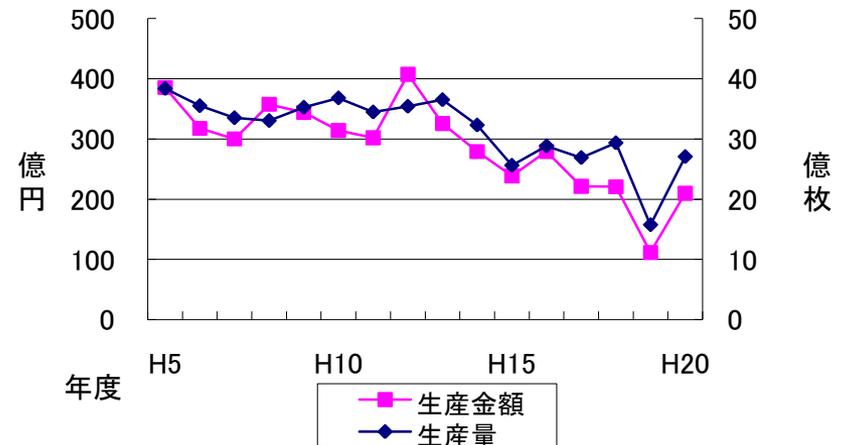
② 河川水最適利用技術の開発(19~21年度)

河川から海域に供給される栄養塩を最大限活用するノリ網の配置の仕方等の検討。



長期的に生産量を安定させるためには、冬季の栄養塩レベルの向上が必要

■ 瀬戸内海におけるノリの生産量等の推移 ■



■ 色落ちしたノリ ■

